

令和元年度 第1回 青森市廃棄物減量等推進審議会 会議概要
(通称：住みよいくリーンな青森市を考える審議会)

1 日時

令和2年2月14日(金) 15時20分～16時30分

2 場所

沖館市民センター 2階 中会議室(B)

3 出席者

【委員】：加川委員(会長)、西田委員(副会長)、伊藤委員、今井委員、上村委員、竹中委員、松山委員(一戸委員欠席し、8名中7名参加) ※副会長以下、五十音順

【事務局】：環境部 八戸部長、川村次長

廃棄物対策課 村本課長

清掃管理課 若佐谷課長、泉副参事、舘田主幹、鎌田主査、平井主事

青森市清掃工場 千葉場長

浪岡事務所市民課 石村課長(10名)

4 審議案件

ごみの減量化に向けた新たな目標(案)について

5 審議内容要旨

(西田委員)

・事務局から提示された毎年度800トンずつ減量させていくという目標案については、妥当で良い数字と考える。減量化の実績が年々鈍化してきているとのことだが、モチベーションが下がっているのではないか。事業所に訪問しごみの減量化・資源化を働きかける際に、青森商工会議所で実施している『エコ検定』や『SDGs』についても働きかけることで、強い環境意識を持った職場のリーダーを養成することになり、それがごみの減量化のモチベーションに繋がると考える。

(竹中委員)

・事業系ごみの減量化については、青森商工会議所で実施している『エコ検定』のほか、各種研修等を通じて啓発していくことが重要であると考えている。

(伊藤委員)

・浪岡地区の資源ごみのリサイクルが進んでいない原因として、浪岡地区の資源ごみの収集ボックスが、サイズが小さいものが多いことも一因と考える。ごみの減量化は、いかにして燃えるごみ・燃えないごみから資源ごみに出してもらおうかがカギとなる。

(今井委員)

・ポイントカード制にするなど、市民にとって、自分のごみを削減したことが「旨味」になるような制度がないとモチベーションが上がらないと思う。また、ごみの減量化に比較的無関心と思われる若い人に対してよりアプ

ローチするべきだと考える。

(松山委員)

- ・若い人の中にもこのような内容に関心のある人はいると思う。市民への啓発活動をただ実施するだけでなく、環境に関連したNPO活動を実施している若い人もいるので、そのような関心のある若い人に絞って啓発活動をするなど、啓発活動についても工夫の余地があると感じる。
- ・分別は家で場所を取るし、収集ボックスに出す前の保管等も面倒である。例えば、紙ごみ専用の袋があれば保管しやすいと考える。

(上村委員)

- ・青森県では、「雑紙回収袋」を作成し、学校等を通じて配布している。これが、だいぶ定着してきていると感じている。また、今年、レジ袋が有料化となるので、それを機にマイバックが一層普及するだろうと考えているのだが、それに関連した施策を実施してもよいのかなと思う。
- ・ごみの減量化を図るため、県内の半分の市町村で有料化を実施しており、その検討も必要ではないか。
- ・青森市一般廃棄物処理基本計画との整合性はどうなっているのか。青森市一般廃棄物処理基本計画においては、一人一日当たりのごみ排出量で記載されていたと思うが、今回の資料ではその一人一日当たりのごみ排出量という観点がない。それがないと、人口減少によって人が減る分ごみが減量するのは当然で、一人一人が排出する量は逆に増えているということにもなりかねない。よって、今後は、一人一日当たりのごみ排出量も基準とした進捗管理を行うべきである。

(加川会長)

本日の意見等を『ごみの減量化に向けた新たな目標(案)』に反映し、ごみの減量化・資源化に繋げてほしいと考える。

(事務局)

- ・委員の皆様からいただいた意見を踏まえて、『ごみの減量化に向けた新たな目標』を策定したい。